

【綾町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって目指す学びの姿

本町では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るため、1人1台端末の積極的な利活用を推進してきました。GIGAスクール構想第2期に向けては、以下のような児童生徒の学びの姿を目指します。「令和の日本型学校教育」の構築のために、まずは「個別最適な学び」について、これまで単元内自由進度学習や複線型授業など、個々の理解度や学習ペースに合わせた授業改善に取り組んできました。今後はICTを活用し、学習履歴をデータとして蓄積することにより、児童生徒一人ひとりの実態に合わせた学習計画に基づき、学習者主体の学びを進めていきます。また、「協働的な学び」では、ICTの共同編集機能やクラウドストレージ等を活用し、学校と家庭を繋ぐ「反転授業」の推進を図ります。さらに、児童生徒が地域や専門機関等とオンラインで繋がり、多様な考えに触れることで自己の考えを整理・分析・深化させたいと考えます。最終的な目標として、小中学校で「自由進度学習」を推進します。

2. GIGAスクール構想第1期（令和6年度まで）の総括

本町では、令和元年度にGIGAスクール構想に先立ち、小中学校に学校用タブレット端末を78台導入しました。さらに令和2年度中に構内通信ネットワーク及びタブレット端末を587台整備し、令和3年度から1人1台端末の本格的な利活用を開始しました。令和3年度から令和6年度まで、学校におけるICTの効果的な利活用等についての研究を行うとともに、先進地域の相互交流や講演会・研修会を開催し、町内全学校への普及を図ってきました。また、AIドリルや「協働的な学び」のための汎用クラウドツールのID付与等、クラウド環境の整備にも努めてきました。さらに、小中学校にモバイルルーターの貸し出しを行い、誰一人取り残さない教育の実現に向けて取り組んでいます。小中学校において校務DXの推進は図られていますが、学校・教員間でのICTスキルに差があることが課題です。今後は、自立した学習者を育成するための授業改善のツールとして、教育全般でのDXに向けた取り組みが必要です。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の積極的な利活用

授業だけでなく、学校と家庭を繋げるツールとしての端末の活用を推進します。さらに、児童生徒が主体的に、学校行事、係活動等の日常的な活用を充実させます。

(2)個別最適な学び・協働的な学びの充実

AIドリルの学習履歴を活用した「個別最適な学び」の推進、及び情報共有と共同編集作業による「協働的な学び」を通して、自立した学習者の育成を図ります。さらに、生成 AI 等の効果的な活用を検討し、児童生徒の創造的思考を育成します。

(3)全ての児童生徒の学びの保障

不登校の児童生徒の家庭及び教育支援センターでの AI ドリルの活用、別室からの授業参加、障がいのある児童生徒に対するデイジー教科書等の活用等を通して、「誰一人取り残さない教育」の実現に向けて学びの保障を行います。

(4)積極的生徒指導の充実

ICT を活用した健康観察及び長期休業中の悩み相談、タブレット端末を活用した SNS 相談の推進により、複数の教員による児童生徒の対応を行い、全ての児童生徒を対象とした発達支援的生徒指導の充実を図ります。